

えこあっぷ!!

創刊号

2003.10 No.1

発行：滝川市 森のかがく活動センター 〒 073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線 1754)

滝川市森のかがく活動センター情報誌「えこあっぷ!!」創刊号をお届けします。

この情報誌は、「ひと」と「自然」との関係をあらためて考え、ふるさとの自然を再発見する活動を行う「たきかわ環境フォーラム」が編集を行います。

「ひと」と「自然」とをつなぐ様々な情報の提供や、イベントのお知らせ、各地の自然環境活動の紹介などをお伝えします。

本号は創刊号として、たきかわ環境フォーラム設立総会の報告とメンバー紹介、連載記事『えこあっぷ!!宣言 - みんなでエコアップ!』、滝川市森のかがく活動センター 定例講座などをご案内します。

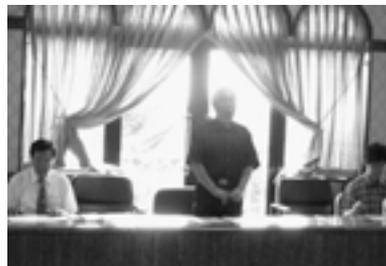
たきかわ環境フォーラム設立総会が行われました



平成15年8月31日、滝川市民会館において「たきかわ環境フォーラム設立総会」が執り行われました。

本年5月から準備会を立上げ、8回にわたる準備会議を経ての設立総会です。

出席者は田村弘滝川市長ほか20名の皆様にお集まりいただき、開会から呼びかけあいさつ・来賓あいさつ・経過説明・議事までが滞りなく終了しました。



設立総会の中で、代表 高橋啓治氏から「中空知の環境について総合的に活動できる拠点が滝川市によって提供された。実際の活動は市民の力によって行って行きたい。そのためにはフォーラムメンバーの英知を結集し、市民の皆さんにも積極的に参加活動していただけるソフト作りが重要である。設立総会に参加いただいた皆様には、よりいっそうの協力を願いたい。」と、たきかわ環境フォーラム設立の喜びとこれからの決意が語られました。

田村滝川市長からは「沈黙の春」(レイチェル・カーソン著)の一文を引用され、人と自然環境が一体とな

った住みやすい町づくりを目指そうとする熱意が語られ、「旧北海道林務署跡地の再利用という形での出発で、建物は立派ではないだけに、是非立派なソフトを皆さんの手で作っていただけるよう私どもも一生懸命努力をさせていただきますと思います。」とのお言葉をいただきました。また、滝川市におけるボランティア活動の活性化への大きな期待も語られました。

設立総会終了後は懇親会が行われ、フォーラム運営委員渡部昭彦氏のサクソ演奏に始まり、参加者それぞれの『滝川の人と自然のあり方』について熱い思いが交わされました。



9月19日には、たきかわ環境フォーラム第1回会議も行われ、滝川市森のかがく活動センターの活用やイベント企画など、施設の運営について意見の交換が活発に行われています。



たきかわ環境フォーラム メンバー紹介

...色づく森で...

セミの声も静まり、丸加山の森では早くも山の樹木たちが紅葉の準備を始めています。朝夕の寒暖の差が増す山頂付近のナナカマド・ダケカンバなどが色づき始め、ふもとへと広がりを見せていきます。

ミズナラ・クルミ・ヤマモミジ・ツタウルシなど丸加の森の樹木が赤・だいだい・黄色の見事な色彩

に染まり、ところどころにエゾマツ・トドマツの深い緑色とのコントラストが目にも鮮やかになってきました。

ゆっくりと森のリズムであなただけの秋を見つけてみませんか？

体に吹く風がそっと秋の気配を教えてくださいます。



最近使われるようになった言葉ですが「スローライフ」という言葉をご存知ですか？言葉通り「ゆっくり生活する」という意味を持ちます。とかく「かけ足」で生活しがちな忙しい時間がとても多い現代。疲れた心と体を開放してあげましょう。

単に「ゆっくり」するだけではなく「丁寧に」生活する意味も含まれています。好きな音楽を聴く、野に咲く草花を愛する。自然散策する事、ちょっとした散歩なども立派なスローライフです。

高くなった空の下、収穫作業がピークを迎えました。採りたての恵みをほおぼる幸せ。ジャガイモ・玉ねぎ・カボチャ等々...と大地の恵みに感謝して味わう。この実り豊かな大地で暮らす私たち。ともすると食の大切さを忘れてしまうことがあります。

ご飯を食べて元気になったこと。料理を褒められた時の喜び。おいしさこぼれる笑顔...

思い出してください。

自然を愛し、味わい、大人が特技を活かして自由に参加活動して「週末のガキ大将」役として「森のかがく活動センター」で遊ぼう！

この大地をテーブルにみんなで楽しめる3つの事

あ = アウトドア
そ = 創造
ぶ = 文化

を私たちと一緒に考えてみませんか？

「滝川市森のかがく活動センター」は「自然・環境情報の発信拠点」なのだから。

万代 トメ子 (まんだい とめこ)

滝川市東町在住 56歳 たきかわ環境フォーラム 副代表、昭和63年 空知管内27地域リーダーのネットワーク「270万石 空知(ちから)結ばん会」の空知幕府滝川藩老中を務める。

道庁主催地域リーダー養成塾「北の未来塾」第2期生 塾長、「滝川を楽しもう 観光ボランティア つうフレンド」、食の安心・安全「滝川食と農を考える女性の会」に参加。琴名流大正琴で「嬉しい悲しい淋しい楽しい」を奏でる。音色は結構楽しくこれからの生涯学習のひとつです。

施設ご案内

滝川市森のかがく活動センターは、空知川を目前に望む空知町に位置しています。

ただいま改装工事・展示物作成と公開準備作業の真っ最中！開館に向けて大忙しです。

〒073-0034

滝川市空知町2丁目6番31号

滝川市森のかがく活動センター



えこあっぷ！宣言

- みんなでエコアップ！ - 第2回 エコアップの基本理念

エコアップ (ecological up、増自然) の基本的理念についてもう少し考えてみましょう。

似た言葉でビオトープ (biotope) があります。ドイツの生物学者ヘッケルが一世紀ほど前に提唱した言葉で、エコアップとの明確な区別はありませんが、空き地、ビルの屋上などの“何もなくて”、“人の手でもって”植物を植えたり水辺を作ったりすることによって自然を復元することが、ビオトープと言えます。

一方、残された自然の力を利用して環境を保全したり改善する“工夫”が、エコアップです。ビオトープの集合をエコアップと考えることもできます。

一つ、例をあげて考えてみましょう。

自然のままの川は、蛇行したり、土が貯まったり、流れの早いところや遅いところ、浅いところや深いところがあります。水底も石や泥など様々な環境があって、それぞれの場所ごとに、それを好む生き物が暮らすことができます。

ところがコンクリートで覆われ、流れがまっすぐにされた川では、環境が単純で、隠れ場所や卵を産む場所がないなど、そこに住める生き物は限られてしまいます。

川岸に木を植えると、野鳥やエゾリスにとっての通り道にもなります。そして川の通り道を沼や湿地、森へとつないでいけば、行き来する生き物をもっと増え、より広い生息環境を必要とする生き物も暮らして行けるようになります。

もちろん、自然のまま残された川や沼があれば、それを守ることが一番大切で、最初に取り組むべきです。無くなった自然を回復させるより、今あるものを守る方がずっと効率的です。さらにそこには、他ではもう見られなくなった種類の生き物が残っていて、周りの自然環境を復元するときの“遺伝資源の供給源”となる可能性があるからです。

このような工夫を、あちこちで、そして相互につながって行くと、一つ一つは小規模でも、全体としては大きな自然生態系を守り、復元させることになります。これがエコアップの基本理念です。

整理すると、エコアップの基本は、次のようになるでしょうか。

【エコアップの基本】

1. 守る (残された自然を守る)
2. 豊かにする
(人工的環境を改善し、自然を豊かにする)
3. つなげる
(自然をつなげ、広い範囲で自然環境の豊かさ [生物多様性] を向上させる)

ところが、川を工事するとき、少しだけ工夫をするとしましょ。川岸や水底を単純にコンクリートで固めるのではなく、わざと土のままの岸や水底を残したり、蛇行を残したり、ところどころ中州や水のたまるような場所を作って環境に変化を付けると、それだけで多くの動植物が暮らすことができ、私たちにとっても、植物を眺めたり、魚をすくったりといった楽しみができます。

こんどは、必要のない限り川岸の草刈りをやめるとしましょ。草むらで虫取りをしたりエゾイチゴの実をつんだりという楽しみが増えますし、何より川岸の草むらには、生き物の隠れ家になったり、そこで増えた虫が川に落ちて魚の餌になるという、重要な役割もあります。

さらに、川岸の草むらも含めて、川は生き物の通り道 (専門用語でコリドー、または回廊) となって、生き物が新しい生息地に広がったり、季節ごとに移動したりするのを助けます。そのためには、できるだけ自然な、あるいは“一工夫加えた”川が連続していることが大切です。↙

ここで忘れてならないのは、エコアップは『原自然』 (もともとそこに存在していたはずの生態系) を守り、復元させるものだということです。

“一つとして同じ場所がない”のが本来の自然です。ですから、そこにはどんな生き物がいたか、あるいはいるのがふさわしいのかを、きちんと調べ、エコアップの目標を立てていかなければなりません。本来のものではない自然をつくるうとすると失敗する可能性が高くなりますし、もしいないはずの生き物をつれてくると、周りの自然環境を壊すことにもなります。せっかく残されている自然環境を壊してまでビオトープを作ったりエコアップをすることも、あってはならないことです。

また、もし、今ある私たちの暮らしを犠牲にしてまで自然を回復しようとする、また違った問題が生まれてしまいます。

無理をしない範囲で、今の私たちの暮らしの中で自然環境を豊かにし、それによって人間のためにも、環境をより豊かにしていくのが、エコアップの理想です。

もちろん、私たちも生き物たちのために、少し、場所をゆずりあわなければなりません。

...つづく...

[武田 忠義 (たけだ ただよし)]

滝川市 森のかがく活動センター 定例講座

えこあっぷ! のご案内

参加申し込み・お問い合わせは、滝川市教育委員会 文化振興課 23-1234 (内線1754) まで。

10月開催講座 バードテーブル作成

開講日：平成15年10月11日(土)
 時間：午前10時～12時
 場所：滝川市森のかがく活動センター
 講師：越後 弘(たきかわ環境フォーラム)
 定員：30名
 参加費：1,500円(材料費・餌代・保険料含)

冬も間近...
 自宅の庭に餌台を置いて、秋冬の鳥たちを呼んでみませんか? うまく鳥たちを庭に迎えるコツが聞けるかもしれません。鳥たちのための“エサ”付です。

11月開催講座 たきかわ環境フォーラム・パネルディスカッション

開講日：平成15年11月9日(日)
 時間：午後1時～3時
 場所：美術自然史館
 講師：吉沢 隆司(たきかわ環境フォーラム)
 定員：なし
 参加費：無料

テーマ：森のかがく活動センターをどう活用するか...
 一般参加を募集します。たきかわ環境フォーラムメンバーと一緒に、人と自然環境との関わりについて話しませんか?

ニックネーム・シンボルマーク募集!

「森のかがく活動センター」では、施設の愛称とシンボルマークを募集します。親しみやすく覚えやすい、自然環境に配慮した未来への明るい展望を感じさせるニックネーム(愛称)とシンボルマークの応募を期待しております。

応募規定 ニックネーム(愛称)：ふりがなを併記して 簡単な説明、住所、氏名、電話番号、年齢を明記し、次の応募先宛に郵送してください。

シンボルマーク：マークのデザインに簡単な説明、住所、氏名、電話番号、年齢を明記し、次の応募先宛に郵送してください。

応募資格及び応募点数に制限はありません。ただし応募1通につき1点、自作未発表作品に限らせていただきます。採用作品の一切の権利は滝川市森のかがく活動センターに帰属しますとともに、使用の際に補作、修作する場合がありますことをご了承願います。

応募先 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号
 滝川市教育委員会文化振興課「森のかがく活動センター愛称募集係」
 電話 23-1234 (内線 1754) FAX 24-1024

応募締切 平成16年3月31日(水)当日消印有効

発表 ・森のかがく活動センター情報誌「えこあっぷ!」平成16年5月号(平成16年4月30日発行予定)にて発表します。
 ・広報たきかわ平成16年5月号にて発表いたします。
 ・発表後、受賞者に直接お知らせします。

賞 ニックネーム(愛称)：優秀作品1点。(同名多数の場合は抽選で選出)
 受賞者には、賞状と副賞(えこあっぷ!セット)を贈呈。
 シンボルマーク：優秀作品1点。
 受賞者には、賞状と副賞(えこあっぷ!セット)を贈呈。

2003年10月8日発行

発行者：滝川市森のかがく活動センター

編集：たきかわ環境フォーラム

〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線 1754)